

## 第21回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 令和7年3月13日（木） 14時00分～14時30分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】 1. 今後の当院の方針について  
2. 自由討議
- 【出席者】 宗宮 優 （医師会／可児医師会長）  
久保田 芳則（行政・県／可茂保健所長）  
佐橋 紀康 （行政・市／可児市健康増進課長）  
小栗 直美 （利用者／自治会長）  
梶田 泰一 （院長）  
高山 卓也 （事務長）  
近藤 清典 （看護部長）  
樋口 直哉 （総務企画課事務長補佐）

### 議事録

#### 【梶田院長】

可児とうのう病院 院長の梶田でございます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。日ごろから職員一同奮闘しておりますが、なかなか気づかない点もあるかと思しますので、皆様の外からの視点で貴重な意見を賜ればと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### ○議題1

当院の今後の方針について

#### 【梶田院長】

当院の立ち位置は地域密着型の中小規模病院という位置づけです。

現在3病棟ありますが、2つは急性期病棟、1つは地域包括ケア病棟というスタイルは維持していこうと思っております。私も赴任して2年となりますが、近隣の病院との連携、特に中部国際医療センターとの連携はとても大事だと思っております。

昨年から中部国際医療センターの杉山院長とお話をさせていただく機会を積極的に設けております。救急については高機能の中部国際医療センターに対応していただき、容態が落ち着いた可児市の患者さんは可児市の病院、当院、東可児病院、藤掛病院で診させていただきたいと申し入れしております。もう一つ、病院の経営環境が厳しい中、当院が存続していくためには、機能を絞って強化していくことが必要だと考えています。ただ当院がいたずらに一部の機能を集約するといっても、周りの環境もありますので、その点も中部国際医療センター、県立多治見病院と連携していきたいと思っております。

医師の確保について次年度から、消化器内科1名、血液内科1名、眼科2名、計4名の先生が赴任されますので、現在の体制が変わることはありません。

その他、健康管理センターの建て替えの計画を法人本部とともに進めております。令和7年度から可児市の特定健診で内視鏡検査を希望される方が多く、申込をされた方のほとんどが当院での受診を希望されております。消化器内科の医師が増えますので、受診者の方々が十分満足できるような体制を整えようとしております。以上で今後の当院の方針についてご説明を終了いたします。

**【佐橋健康増進課長】**

可児市の健診で内視鏡検査を可児とうのう病院に引き受けていただき誠にありがとうございます。当初200名の希望者がありましたが、希望者は更に増え、現在400名を超えております。ほとんどの方が可児とうのう病院を希望しているため、負担が増えることを心配しておりましたが、医師が増員されるということで、前向きに検討していただけるということで安心しております。市としましても、健診の受診率の向上を目標にしておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

**【宗宮医師会長】**

梶田先生には中部国際医療センターとの連携について頑張ってくださいしております。私も中部国際医療センターから、救急は対応するが、手術、病室が満床になれば下り搬送をお願いしたいと言われております。中部国際医療センターに限らず、可児とうのう病院でも病室が満床となり、下り搬送や退院後の通院が必要な際は、私たち開業医が協力していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

中小規模の病院の8割が経営が非常に厳しいという情報があります。可児とうのう病院の経営状況はわかりませんが、経営が厳しいようであれば可児市の援助が必要だと思います。可児市には市民病院がないわけなので、公的な病院である可児とうのう病院がなくなったときにはどうなるか考えていただいて、資金的援助を検討していただきたい。

**【久保田保健所長】**

先日、梶田院長には可児市、美濃加茂市等の救急の会議がありご一緒でした。その中で災害体制の話があり、南海トラフ地震があった場合、日本DMATに登録している県内の人材がすべてその地方に行ってしまう、岐阜県内で救護所や転院搬送等を担う人材が少なくなってしまう。そこで現在予算申請中ですが、令和7年度から県独自のローカルDMATを構築する計画があります。県内のDMATの人材を医師だけでなく、看護師、事務員を含めて育成していく予定をしておりますので、可児とうのう病院にも積極的に参加していただきたいと思います。

(自由討議)

議題2 災害時の当院の体制と連携体制について

### 【事務局】

昨年の当協議会の中で、可児市より市、医師会、医療機関が災害時に連携する体制づくりを検討しているとお話がありました。その話が現実となり、当院を含めた医療機関が可児市と災害時の協定を締結しております。具体的には当院は救護所、救護病院の役割を担うこととなり、救護所は負傷者のトリアージ、軽症者の処置、救護病院は中等症の対応となっております。また救護所には医師会、可児市から応援に来ていただくこととなっております。その他の連携としては、東可児病院、藤掛病院が当院と同様、救護所、救護病院の役割、可児市医師会に所属する5つのクリニックが災害支援医療機関となり軽症者の対応する役割を担っていただけます。また重症者については、中部国際医療センター、中濃厚生病院が担当するという役割となっております。

### 【宗宮医師会長】

医師会の先生も名古屋在住の方が多く、平日の場合は可児市にいますが、夜間等は可児市にいないため、医師会も人材確保が難しい状態です。また道路等のインフラが整備されていない状況で、搬送するとなってもどうやって搬送するのか等、具体的な話が出ていないので、絵にかいた餅にならないように市が中心となって検討していなければならないと思います。

### 【佐橋健康増進課長】

市としても、医療機関に防災倉庫を設置しております。救護所開設の訓練を行う予定をしております。また人材確保についてはフリーの看護師に災害時の協力していただける方を募集し現在15名ご応募いただいております。これから市としても災害時の体制を構築していきたいと考えております。

(終了 14:30)